

〔学力向上フロンティア事業中間報告書〕

都道府県名	大阪
-------	----

・学校の概要 (平成15年4月現在)

大阪府三島郡島本町立第四小学校									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	養護学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	2	14	23
児童数	75	62	54	67	52	78	9	397	

・研究の概要

1. 研究主題

全ての児童に、個に応じた指導の徹底を図る少人数授業のあり方について ———個を大切に自ら選択する授業を目指して———
---

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>基礎基本の徹底を自ら選択する力については全学年で取り組む課題であるので、1～6年の全学年で実施する。また、授業で分かる、できるがはっきりする算数科を中心に取り組む。低学年担当教員は、第1学年の算数と国語、第2学年の算数で、少人数指導をする。中学年担当教員は、第3学年及び第4学年の算数で、高学年担当教員も、第5学年及び第6学年の算数を中心に少人数指導をする。高学年においては、専科担当教員及び交換授業により教科担当制を実施し、さらに中学校との連携として、兼務発令(数学・理科・音楽)による授業交流も実施する。</p>
---

(2) 年次ごとの計画

テーマ	個の理解 (確立)	少人数 授業研究	学力保障	自らの育成 (意欲)	保護者のとの連携 (地域)
平成 14 年度	仮 説 自己表現力の 育成 他者理解	授業で わかる喜び	全ての児童に 基礎・基本の 定着を	「生きる力」を 育む	開かれた学校 参加する学校
	研究 内容 ・ 方法 ・ 4つの委員会 (学力・生活・人権・健康) ・実態交流 ・低、中、高学年制	・算数科で ・分割、コース づくり ・到達度評価	・診断テスト ・学力補充の方法 全校、時間割、休業中 ・教科担当制	・四小いきいきプラン ・児童会活動 ・縦割り集団「四小キッズ」	・参観、懇談 ・たよりの発行、HP ・学校支援ボランティア ・いきいきふれあい教育
平成 15 年度	仮 説 自己表現力 他者理解 人間関係 づくり	授業で わかる喜び	全ての児童に 基礎・基本の 定着を	「生きる力」を 育む	参加する学校 共に創る学校
	研究 内容 ・ 方法 ・ 4つの委員会 ・実態交流 ・低、中、高学年制	・算数科等で ・選択制 ・評価規準	・診断テスト ・方法、ドリル ・教科担当制	・四小いきいきプラン ・「四小キッズ」 ・自己選択	・情報提供 ・いきいきふれあい教育 ・学校協議会
平成	仮 説 自己表現力 人間関係 づくり	個に応じた わかる授業	全ての児童に 基礎・基本の 定着を	「生きる力」を 育む	共に創る学校 生涯学習の センター

16 年 度	研究 内容 ・ 方 法	・ 4つの委員会 ・ 複数担任制	・ 全教科で ・ 指導と評価	・ 診断テスト ・ 方法、ドリル	・ 四小いきプラン ・ 自己選択	・ 学校協議会 ・ コミュニティ スクール
--------------	-------------------------	---------------------	-------------------	---------------------	---------------------	-----------------------------

### (3) 研究推進体制

少人数加配教員を中心に「少人数授業推進委員会」を設置し、従来の4委員会（学力保障・生活指導・人権教育・健康教育）、特に「学力保障委員会」と連携し推進にあたる。企画委員会にも委員長が所属し、学校運営の中心に位置付け、教科部会及び低・中・高学年部会にて具体的な取組みを実施する。

#### ・ 平成15年度の研究成果及び今後の課題

##### 1. 研究の成果

- ・ 少人数授業を進めるには、学級単位でなく学年としての取組みが必要であり、さらに全校としての考え方も重要となり、教師自身の意識改革が迫られた。
- ・ 少人数の指導法や教材研究を深めていく中で、全校的な系統性や評価の面でも考察することができ、学校としての取組みが進んだ。
- ・ こどもたちの実態に合わせて習熟度別学習や課題別学習などを前向きに進め、一人ひとりに十分に目を向けた「個に応じた指導」に取組んだ。
- ・ 習熟度別学習をすることにより
  - 子どもたちは自信のない所を再度学習することで、理解できるようになる。
  - 発展学習で考える力を養う。
  - 自分のペースに合わせて学習を進めることができる。
  - 早く解けて待っている時間が激減する。
- ・ 児童の反応として、よく分かる。意見が言いやすい。当たりやすい。わからないところをすぐ教えてもらえる。自分に合うコースを選べて、勉強しやすい。等がある。
- ・ 保護者からは、集中して授業を受けている。いろいろな先生やコース別など子どもが楽しい、好きだと言っている。全教科に広げてほしい。等が寄せられている。

##### 2. 今後の課題

- ・ 特に理解や定着に課題のある子どもをどうするかについては、単に少人数授業を取り入れただけで解決する問題ではない。習熟度別学習を進めたり、「たけのこクラブ」を実施するなど、子どもの実態に応じた指導体制を工夫しいろいろと実践した成果をもとに、さらに有効な学習形態や指導法を編み出していく。
- ・ 評価についての話し合いをさらに深め、個に応じた指導に生かしていく。
- ・ 特色ある学校づくりや総合的な学習との関連、「生きる力」を育てる取組みと少人数授業との結合を図っていく。
- ・ 算数科だけでなく、他教科でも自己選択やコース別の学習を拡大していく。
- ・ 事前の教材研究や進め方など十分な打ち合わせがないと指導者による差が出てくる。

#### ・ 学力把握のための学校としての取組

- ・ 到達度評価のための全教科の評価規準の作成、算数科の単元毎到達度テスト
- ・ 算数診断テスト（全学年で、全領域を、年度末に）
- ・ 学力補充教室「たけのこクラブ」の実施

・フロンティアスクールとしての研究成果の普及

平成13年度大阪府少人数授業モデル校として、平成14年2月20日に、自主研究発表会（冊子模索制）を実施した。

平成15年1月28日～30日、参観DAYSとして、保護者、町内・三島地区教職員、及び府下フロンティアスクールを対象に授業公開を実施した。また年度末に研究まとめ（冊子）を作成、配布する。

平成15年度については、学期毎の保護者授業参観等を、三島地区及び府下へ公開し、少人数授業研究発表会（平成16年1月27日）として府・全国の教師へ取組みを発信し、年度まとめを作成配布した。

平成16年度についても授業公開の実施等で、特に習熟度別学習の研究を積み上げていきたい。

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	6学級以下 13～18学級 25学級以上	7～12学級 19～24学級		
【指導体制】	少人数指導 一部教科担任制	T.Tによる指導 その他		
【研究教科】	国語 生活 体育	社会 音楽 その他	算数 図画工作	理科 家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	